サツマイモ品種比較試験

平成 20 年 6 月 17 日
総合農事センター

1　目的

単位面積あたりの収量が多いサツマイモは、健康志向の高まりとともに消費者には根強い人気があります。新しい品種も注目されており、品種比較の試験を行うものです。

2　試験

(1) 試験期間　　平成 19 年 6 月 8 日～平成 19 年 10 月 22 日
(2) 品種名　　なると金時、紅あずま、安納３号、九州 121 号
(3) 栽培場所　　総合農事センター　露地圃場
(4) 栽培方法
　① 畝幅　　50+80cm（畝幅 50、畝間 80）
　② 株間　　50cm
　③ 施肥量　　苦土石灰（120kg/10a）、硫酸カリウム（20kg/10a）
　④ その他　　黒色ビニールマルチ

3　試験経過

(1) 肥料　　定植後追肥なし
(2) 防除　　定植時殺虫剤散布(ダイアジノン粒剤)、その後防除なし

4　試験結果

品種名	10a 収量 (kg)	定植日	収穫日	栽培日数	食　味　等
なると金時	1,854	6月18日	10月３日	108	良、廃棄多（子イモ）
紅あずま	1,409	6月20日	10月16日	119	良、貯蔵性にやや難、大玉
安納３号	1,440	6月20日	10月４日	107	優、細多
九州 121 号	1,264	6月８日	10月22日	137	良

5　考察

・「紅あずま」は、取り遅れの傾向があるのか、溝が深く外観はよくない。大玉傾向。
・外観や食味、収穫量など「なると金時」は、良好な成績であった。
・「安納 3 号」は、細いイモが多かったが、食味が良いため、ほとんど販売することができた。他の品種に比べ廃棄量が少ない。
・本圃場は、コガネムシ幼虫の食害が多いため黒ビニールマルチ栽培したが、夏場の高温のためか「遠なり」が多く、シルバーマルチの使用を試したい。
・畝間を広く取る栽培であったため、収量は低かった。密植との比較が必要と思われる。

なると金時

紅あずま

安納３号

九州121号

１株当たりｇ、ｃｍ

品種名	株重量	最大長	最大重	イモ数
なると金時	1,852	17	530	9
紅あずま	760	23	580	3
安納３号	1,295	26	268	12
九州 121 号	1,216	25	366	7